

会議議事録		学校長	企画室長	教務部長	学科長	記録
会議名	2021年度 学校関係者評価委員会					
開催日時	令和4年7月5日(火)	18:30~20:00	開催場所	本校 図書室		
参加者	学校関係者評価委員(50音順) 岡本和也:卒業生代表 柿木田健:社会福祉法人広島常光福祉会 理事長 梶原穰治:学校法人虹山学園 理事長 土谷治子:医療法人あかね会土谷総合病院 理事長 脇田康則:高等学校代表			※トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校 中川学校長・竹越理事 宅野教務部長・斎木事務課長 各科学科長:吉岡・樋野本・杉野・小津野		
議題	1 学校関係者評価について(資料1) 2 2021年度自己評価について(資料2、3) 3 2022年度の重点目標について(資料4) 4 意見交換 5 次年度スケジュールについて(資料5)					

No	議題	内容(決定事項)
1	学校関係者評価について(資料1)	学校関係者評価の進め方として文部科学省が公表したガイドラインの要約を示し、評価のポイントを確認した。
2	2021年度自己評価について(資料2、3)	自己点検・評価表、様式変更。 1) 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画 ① 本年度の重点目標の評価 ・授業アンケート 3.50以上⇒3.81(達成) ・試験の合格率 100%⇒介護福祉士国家試験は留学生の合格率が悪く、試験対策に改善が必要。臨床工学技士国家試験は卒業試験の合格率を上げるための対策が必要。 ・学生アンケートの自己学習の項目の肯定的評価 S⇒A(未達成) ② 社会的・職業的自立に必要な能力や態度を身につける ・退学率 5%⇒5%(達成) ・SHR 欠席率 1.00人/日未満⇒0.60(達成) ・学生アンケート「挨拶」判定 S⇒S(達成) ・学生アンケート「掃除」判定 S⇒S(達成) ③ カリキュラムマップ、カリキュラムツリーの作成 ⇒フォーマット作成まで(次年度完成を目指す) ④ 経費削減 ⇒引き続き経費削減への取り組みを行う。 ⑤ 入学者数の増加をはかる ⇒新型コロナウイルス感染症の影響で高校生との接触機会が減り、入学者数は減少した。次年度は予防対策を徹底した上でさまざまな取り組みを行い、入学者の増加を図る。 ⑥ 日本語学科の本格運用 ⇒新型コロナウイルス感染症の影響で多くの留学生が入国できな

No	議 題	内 容(決定事項)
		<p>った。次年度は多くの留学生の入学が予定されているため、協力体制を整える。(2022.07 現在、多くの留学生が入国済み)</p> <p>2) 評価項目の達成及び取組状況 各評価項目を6つのカテゴリーに分類し、それぞれについてエビデンスの提示し、4(適切)、3(ほぼ適切)、2(やや不適切)、1(不適切)の4段階で評価を行った。</p> <p>① 教育理念・目標:概ね適切 ② 学校運営: ・授業評価について学生のアンケートを実施しているが、上司が評価をしていない。 ・教員面談に記録がない。 ③ 教育活動: ・質保証を目的とした授業(他の教員による参観)を行っていない。 ④ 学修成果・教育成果: ・卒業生とのつながりが組織的にできていない。 ⑤ 学生支援: ・保証人との計画的な面談を行っていない。 ⑥ 教育環境: ・留学生が増えたため、災害時の避難指示の徹底が求められる。7月に避難訓練実施予定。 ⑦ 学生の受入れ募集: ・評価、エビデンスも概ね適切であるが、実際の入学者数に反映されていない。 ⑧ 教育の内部質保証システム: ・自己点検・評価、および学校関係者評価に基づき、できるところから改善しているが、改善計画書や報告書の作成まではできていない。 ⑨ 財務: ・学生数減少に伴い、財政面で厳しい状況が継続している。 ⑩ 社会貢献・地域貢献:概ね適切 ⑪ 国際交流: ・日本語学科の本格運営を速やかに軌道に乗せる必要がある。</p>
3	2022年度の重点目標について(資料4)	<ol style="list-style-type: none"> 本校ディプロマポリシーにそった人材を育成する。 社会的・職業的自立に必要な能力・態度を身につける。 日本語学科において、日本の高等教育機関等で十分に勉学できるだけの日本語能力を身につける。 カリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーを作成し、ディプロマポリシー、カリキュラムの見直しに活かす。 経費削減を図る取り組みを教職員全員で共有する。 広報募集活動を積極的に行い、入学者の増加をはかる。 日本語学科に対し、教職員全員で情報共有し、協力する。
4	意見交換	<p>留学生の受入れに関するアドバイス</p> <p>土谷:4月からスリランカ2名、フィリピン2名受入れている。挨拶も日本語もよくでき、スタッフからの評判が大変いい。特に問題はない。アルバイト代が固定給だが、時間給にすると固定給以上に支給できる。</p> <p>竹越:5W、2Wという期間で学外実習に出る際にアルバイトができないこと、ケガや病気の際の最低保証をと入管からの指導があり、固定給でお願いしている。</p> <p>柿木田:インドネシアからの技能実習生、2年前から4名、この6月から4名。</p>

No	議 題	内 容(決定事項)
		<p>挨拶も丁寧で問題ない。N4 で入国し、N3 に合格している。管理団体と連携もうまくいっている。この 6 月に入国した人で広島弁がわからず(利用者さんが広島弁を使用)、挨拶もできなくなった人がある。日本語学科では方言は教えないのか。</p> <p>小津野: 広島弁は教えていない。</p> <p>土谷: 国試に落ちた留学生はどうなるか。</p> <p>吉岡: 養成校を卒業していると国試に落ちても介護福祉士。5 年のうちに合格すれば永久介護福祉士。実際に国試に落ちた子は働きながら勉強し翌年に再受験する子が多い。学校から連絡をとり、模擬試験など受けに来る。</p> <p>竹越: 留学生の合格率は問題になっている。介護福祉士養成施設の中でも部会を立ち上げている。2022 年度入学生は入国時期が 5 月上旬までずれ込んだため、初めて日本人とクラスを分けてスタートしている。遠足や球技大会等で留学生と日本人の交流をはかっている。</p> <p>土谷: アルバイトの内容が院内での食事の準備など看護助手的な内容なのだが、それでは本人のためになっていないのか。せっかく来てくれているなら合格させてあげたい。</p> <p>吉岡: 外国人に教えるのは難しいが、専門用語を聞かせるだけでも勉強になる。できれば介護の施設でアルバイトするほうが望ましい。留学生達には利用者と接してわからない言葉はメモして持って来るように伝えている。さらに、日本語をしゃべる機会を与えてもらえるとありがたい。</p> <p>広報募集に対するアドバイス</p> <p>脇田: 直接のターゲットは高校 3 年生だが、認知度が低いので、1・2 年生の段階から認知をしていく必要がある。</p> <p>佐伯高校は昨年、推薦入試の倍率が広島県でトップとなり、統廃合の枠から外れた。女子の硬式野球部を作り、全国から生徒を募集し、地域の家庭で下宿をさせるなど、地域をあげてバックアップした成果である。</p> <p>即戦力として地域に貢献できる人材を育てるということをしっかりアピールしていくことが大切。高等学校の教員が安易に大学へ送り出している。</p> <p>吉岡: 今、広島では介護の魅力を伝えるために年間 100 校ほど小中高等学校をまわっている。小学生から介護の魅力を伝えても大人が邪魔をする。今回初めて広島市と尾道市でティーチャーズ・ツアーを開催し、進路の先生にアプローチをし、効果が出てきた。今後も本校のうりである「地域貢献」をしっかりアピールしていく。</p> <p>梶原: 保育園ではまず一番に子どもと親が来て楽しいことが重要。楽しいこととは日々成長を感じる。口コミは影響が大きいので学生がここに来てよかったねと思えることが次につながる。最終的には子どもと親がどう思うかによる。</p> <p>宅野: 今後は問題のある学生だけでなく、保護者に来てもらうことも大切。</p> <p>卒業生・同窓会との関わりについて</p> <p>岡本: 在校生と卒業生とお互いメリットのあることを考える。学生のころ、働いている先輩の話聞くのが刺激的だった。高校で漠然と保育を選び、専門学校に来て具体化されていった。卒業生の生の声は心に響く。卒業生側も呼んでもらって話す機会があると人に伝えることを学べる。</p> <p>SNS は新しいことの発信元になる。今の子はネットで調べるので雑誌や本を見ない。インスタでタグ。インスタやツイッターで情報を集める。そこで楽しいアピールを探している。うちの会社もインスタを使っている。Google ではない。今からは SNS を上手に使う必要がある。</p> <p>宅野: 今年から臨床工学科の卒業生が授業をしている。卒業生も勉強になると言っている。また同窓会をやったり、コラボレーションをしていきましょう。</p>

No	議 題	内 容(決定事項)
5	次年度スケジュールについて	次回は 2023 年 6 月開催予定。 この会議をもって委員の皆さまの委嘱期間が終了する。可能であれば引き続き委員をお願いしたい。委嘱依頼書をお持ち帰りいただき、検討を依頼。
	<p>貴重なご意見をありがとうございました。</p> <p>2020 年日本語学科開設、コロナの影響で 2022 年 4 月から一気に入国となりました。学校の様子が様変わりしています。今後は日本人、留学生の融合を目指し、環境づくりを支援していきます。</p> <p>楽しい学校を目指し、しっかりと資格を取らせて学校づくりに励みます。</p> <p>引き続きご支援をお願いいたします。</p>	
	次 回 開 催	2023 年 6 月予定